

2026年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答

(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦

<質問1>

長期経営ビジョン最終年度に向けて強化していきたい分野や、ノン・オーガニック事業の取り組みとして計画しているものがあれば伺いたい。

<回答1>

(櫻井)

長期経営ビジョンにおける成長戦略としてオーガニック事業およびノン・オーガニック事業への投資を打ち出しておりますが、明確な区分は設けておりません。投資の対象としては、機械ビジネスを中心とした当社事業に関連する領域になると考えております。当社の成長に資するものと判断できれば、デットや健全な財務基盤を活用しながら積極的に投資を行って参ります。

(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦

<質問2>

長期経営ビジョン営業利益到達目標120億円を掲げている中、旭サナック株式会社の2030年度における収益見込みについて伺いたい。

<回答2>

(櫻井)

長期経営ビジョンにおけるノン・オーガニック事業の取り組みとして、旭サナック株式会社の完全子会社化を実施することとし、12月1日には株式譲渡完了を予定しております。同社の営業利益は15~17億円で安定的に推移しており、底堅い事業を有しています。当社とは予てからタイとドイツで合弁会社を運営しておりますが、今後は当社の経営資源を活用して営業シナジー効果を高め、更なる成長を目指していきたいと考えております。2030年度に向けては、営業部門も交えて具体的な取り組みについて深堀りをするとともに、目標の精査と共有を行って参ります。



(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦

＜質問3＞

東京産業株式会社との協業における方針決定の想定時期について。また、その際のメリットについて伺いたい。

＜回答3＞

(櫻井)

東京産業株式会社は三菱重工の代理店業務を主とし、当社と比較的近い相似形のビジネスモデルと理解しておりますが、ビジネスの詳細は十分に把握出来ておりません。競争力のある取扱商材の拡充、クロスセル、重複する間接部門の効率化、その先には人的資本の拡充等、様々なメリットがあると考えております。

協業・協働の可能性を検討するための協議を開始したところであり、丁寧に議論を重ねることが重要だと考えております。長期経営ビジョンの最終年度である2030年度を念頭に置きながら、慎重かつ出来るだけ効率的に議論を進めて参りたいと考えております。

(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦
取締役専務執行役員 企画管掌 川名 康正

＜質問4＞

通期予想は上方修正することなく据え置かれたが、産業機械事業が中間期で目標数値をクリアしており、加えて12月に完全子会社化予定の旭サナック株式会社の業績を踏まえると、目標上振れの可能性が高いと思われるが、どのように考えているか。

＜回答4＞

(川名)

産業機械事業は好調に推移しており、下期数値については大幅な上昇含め現在精査中です。また旭サナック株式会社については12月1日の株式譲渡完了後に精査が進む面もあるため、現状は具体的に申し上げられませんが、確定次第速やかに公表致します。

(櫻井)

当社の業績は下期偏重傾向にあり、今後は業績予想の確度を上げたいと考えております。中間時点では通期予想を据え置きましたが、下期には大いに期待するとともに、確りと精査を行って参ります。



(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦

＜質問 5 ＞

今期中に中期経営計画最終目標である営業利益 70 億円に到達するのではと感じるが、その見通しが立った場合は今期中に中期経営計画最終目標の数値見直しを行いますか。

＜回答 5 ＞

(櫻井)

現時点での回答は差し控えさせていただきますが、見直しを行う場合は開示条件を踏まえながら遅滞なく情報提供致します。

以 上

(将来の予測に関する注意事項)

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、もしくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。